## 18. イエスの歴史 的な存在を否定でき ますか?

すなわち、ナザレのイエスは1世紀 の前半に実際に存在し、生涯の大半 をガリラヤで過ごしたユダヤ人であ ること。そして、彼に従う弟子たち の一団を形成し、弟子たちはイエス の語る言葉や実際に行った立派な行 動によりイエスを強く信奉し希望を 抱いたこと。イエスは過越祭のため に少なくとも一度はユダヤとエルサ レムに滞在したこと。最高法院の幾 人かのメンバーからは疑念の目で見 られ、ローマ帝国の行政府からは警 戒視されていたこと。また、これら が原因となって、ローマ帝国のユダ ヤ総督であったポンティオ・ピラト により死刑の宣告を受け、十字架に 磔にされ死去したこと。イエスの遺 体は墓に葬られたものの、数日後 に、彼の遺体は無くなっていたこと などです。

現代の歴史的研究の進展により、これらの出来事を史実として認めることが可能となっています。20世紀も

昔の人物について、これほどの資料が残っていることは極めて稀なことであると言わねばなりません。イエスの存在を証明する資料の数に比較すると、歴史上良く知られた人物、たとえばホメロス、ソクラテス、ペリクレス等が歴史的に存在していたことを合理的に示す資料の数は、はるかに少ないのです。

さらにイエスについて歴史的な資料 が提供する情報は、イエスが表される情報は、イエスが像を描きたの人物像をはるかでなる。 が表しただれている事実が、疑いのでは、経り、といるのでは、とっても歴史とれているのではあれているがであるというである。 この導きを誠実に受け入れるためには、神からの無償の助けに頼る必求あります。この神の助けは、現実の知性を照らし、現実の世界の知性を照らして、現まで見せるのではなく、現まで見せるのではないで見失っていきを知覚できかな色彩を知覚できないです。これこの光なのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/18iesunoli-shi-de-nacun-zai-wofou-dingdekimasuka/ (2025/12/03)